

軽作業の派遣時給最高

物流施設の人手不足映す

三大都市圏11月

物流施設で仕分けなどのスタッフの不足感が強まっている。エン・ジャパンが15日発表した11月の派遣社員の時給は、三大都市圏（関東、東海、関西）の「軽作業」職が1231円と過去最高だった。アルバイトやパートの不足を派遣人員で賄う動きが広がった。新型コロナウイルス下の電子商取引（EC）の拡大に年末商戦の繁忙が加わり、現場の人手集めが活発だ。

同社の求人サイト「エ」低賃金が引き上げられた物流センター内の業務が「派遣」に掲載された。前月からも26円（2・2%）上昇した。軽作業職には商品のピッキングや梱包といった

の時給は前年同月比で40%（3・4%）高く、最

ることから、11月が採用のピークになる。これまでは休業・営業短縮を迫られた飲食業から人材が流出し、アルバイト・パートスタッフとして採用しやすい状況が続いた。ただ緊急事態宣

言の解除などを受けて飲食業などの求人が増加したこと、物流は直接雇用の難しくなった。リクルートのまとめによると、「物流作業」職のアルバイト・パート募集時平均時給（三大都市圏）は11月で1150円と前年同月比42円（3・8%）上昇した。アルバイトやパートの採用条件も引き上げているが、それでも人手を確保できない分、派遣社員の活用を

エン派遣では11月の軽作業の求人広告数も前年11月から66%増えた。20年1月比ではまだ2割減の水準だが、コロナ禍に入ってから最も多。エ

ン派遣の中島純事業責任者は「求職者側の応募が活発化せず採用が決まらないことから、求人広告を増やしている面もある」と話す。

軽作業の派遣時給の伸びは全職種の伸びを上回る。11月の全職種の平均時給は前年同月比4円（0・2%）高い1605円。相対的に平均より時給の低いオフィスワーカー系や介護、軽作業などの案件が増えたため全体を押し下げた。前月からは10円（0・6%）低い。物流施設の運営会社や施設に入居する運送会社なども、人材確保に向けた意識を高めているようだ。物流不動産大手の日本GLP（東京・港）が千葉県流山市で開発中の大規模物流拠点には、人材派遣会社3社が事務所を

を構えている。物流企業の求人需要に迅速に対応する仕組みだ。同施設に入居する人材派遣会社の1社は「10月に事務所を設けて以降、入居企業などからは一定の人材需要がある」と話す。

物流施設は郊外の立地も多く、都心部とは違う人材確保の苦労もあるようだ。足元の人手確保のほか、今後も施設開発が続くのも踏まえ、人材対策が活発になるとみられ

る。

る。

軽作業の派遣需要は高まっている

